

生産技術力で実現する 「日本品質の量産対応」

- 納期相談
- 企画力自信有
- コスト相談
- オンリーワン技術
- メイドインジャパン
- 試作可小ロット
- 量産対応



産業用の金属・樹脂部品を手がける

業務内容 業界屈指の 加工設備を誇る

創業以来82年以上続く金属部品の切削加工を中心に、樹脂成形加工、組立を手がける。主力は売り上げの70%以上を占める建機・農機向けの油圧部品や半導体製造装置向けの空圧部品。大阪、奈良、兵庫の国内3工場で月150万個を生産する。

バッテリー端子、光通信用の精密金属部品、自動車の足回り部品、住宅関連部品など、産業分野のさまざまなメーカーと取引がある。3工場でCNC（コンピュータ数値制御）旋盤約240台、6軸自動旋盤は112台を保有し、3代目の川崎恭子社長も「業界屈指の量産力」と自信を見せる。また、中国にも生産拠点を持つ。

強み 競争力を支える技術研鑽

加工品質にも自信がある。24時間365日温度管理を徹底する本社工場ではステンレスなどの難削材もマイクロメートル単位の精度で加工できる。国内の金属加工業の多くが多品種少量生産に軸足を移す中、川崎社長は「日本品質の量産対応」を武器に競争力を磨いてきた。

競争力を裏打ちするのは技術研鑽へのこだわりだ。改善活動はもちろん、社員一人ひとりに目標を設定し、社内外で研修を実施。毎年3工場の社員を一堂に集めて生産改善事例を持ち寄る技術交流会も開催している。平成30年からは新しい研修制度も導入する計画だ。

産技術 内製できる生産技術力

国内で量産品を手がける際に課題となる

のはコスト力だ。川崎社長は「量産用の生産設備は内製することでコスト競争力を出す」と説明する。部品を供給したり取り出ししたりする周辺設備はもちろん、部品を切削するNC（数値制御）旋盤自体も自社で設計・製作する。そのために正社員の約10%にあたる十数名を生産技術部門に割り当て、全社の工場設備の保守や設備の内製を一手に担わせる。

汎用設備を極力購入せず、顧客が求める品質と精度を出すために機能を絞った機械を内製し、投資負担を抑えている。

後の展望 IoT・AIで 一歩先の技術を追求

医療、エネルギーなどの成長分野にも挑戦する。平成27年には酸素濃縮機用の空圧部品や点滴調整用のカム部品などの生産を始めた。医療機器製造業の許可も取得しており、今後はよりレベルの高い医療機器部品に参入する考えた。産業用の実績があるバッテリー端子部品は、需要が広がるEV（電気自動車）用の受注獲得を狙う。

工場ではIoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）を活用した生産管理システムの導入も検討する。川崎社長は「データの蓄積で見えてくるメリットがあるはず」と、一歩先の技術を追い求める。



量産力を発揮する6軸自動旋盤



内製したNC（数値制御）旋盤

当社の歴史



昭和10年に金属部品の旋盤加工業で創業しました。松下電器産業（現 パナソニック（株））向けのボリュームシャフトや自転車ランプ部品の生産から始まり、部品の用途やお客様を広げました。「伊藤金属」ならなんとかなる」と頼っていただけの企業を目指して、常に一歩先の技術を追い求めます。

代表取締役 川崎 恭子さん

<http://www.itoh-kinzoku.co.jp/>

主な事業内容

金属・樹脂部品の加工・組立

主な取引先(納入先)

建設機械、農業機械、油空圧機器、空調機器、バッテリー、自動車、エレクトロニクス機器の各メーカー

- 住所 〒546-0035 大阪市東住吉区 山坂1-7-2
- TEL 06-6628-2421
- FAX 06-6628-5333
- 創業 昭和10年1月
- 設立 昭和25年7月
- 資本金 4,752万円
- 従業員 250名

大阪29 ISO 9001 ISO 14001